



旧大東のノコギリ屋根工場

旧大東株式会社のノコギリ屋根工場は、広い工場の敷地内に建てられているため、外からは見ることが出来ないが、大谷石の外壁と4連の屋根が長い時間と歴史の重さを感じさせてくれる。さらに、これに隣接するコロニアル形式の旧事務所棟の優美さは好対照でもある。

ノコギリ屋根工場は、昭和十二年建設という記録があり、その経緯を知るには昭和初期に本町一丁目にあった北川レース工場の歴史を辿らなければならない。社長は、北川義一郎氏。昭和三年、ドイツから機械を導入し、桐生で初めてのレース工場を創業。事業は順調に推移、工場が手狭になり、如来堂と呼ばれていた現在地に新工場を建設した。ノコギリ屋根や事務所棟はこの時に作られたものである。

戦後、北川氏は産地復興の立役者であった橋本正治氏と共に、この工場に桐生編織株式会社を創立。当時は珍しいトリコット生産に取り組んだが、昭和二十四年に倒産。

工場は、この後、大東へと引き継がれ、織物業から撤退し、ウレタンやプラスチック成型など建設資材から弱電、医療など幅広い分野の素材提供、床暖房設備の設計施工など多角的な業態を持っている。

現在、ノコギリ屋根工場は共和物産株式会社の所有となり倉庫として使われている。

かつてレースやトリコット、輸出織物を織り出し、産地の変革をリードしてきたこの建造物は、再び時代を切り開く時を待っているようにも見える。



所在地 桐生市相生町1 - 24
所有者 共和物産株式会社